

奥州市議会全員協議会 会議録

【日 時】 令和7年6月19日（木） 10:00～11:32

【場 所】 7階 委員会室

【出席議員】 (27名)

菅原由和 加藤清 佐藤美雪 宍戸直美 菅野至 門脇芳裕 佐藤正典 高橋善行
佐々木友美子 東隆司 小野優 及川春樹 高橋晋 千葉和彦 高橋浩 千葉康弘
瀬川貞清 千葉敦 廣野富男 及川佐 飯坂一也 阿部加代子 中西秀俊 菅原明
小野寺重 藤田慶則 今野裕文

【欠席議員】 小野寺満議員

【出席者】 倉成市長 小野寺副市長 朝日田病院事業管理者

二階堂政策企画部長 羽藤総務部長 高野健康こども部長 桂田健康こども部参事
浦川経営管理課長

佐藤新医療センター建設準備室副主幹

鈴木議会事務局長 千田議会事務局次長 佐藤議会事務局副主幹



【次 第】

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 協 議

(1) 説明事項

新医療センター整備基本計画（案）について

- 4 その他
- 5 閉 会



【概 要】

- 1 開会 (略)



- 2 挨拶 (略)



- 3 協議

(1) 説明事項

新医療センター整備基本計画（案）について

○議長（菅原由和君） 早速3の協議に入ります。

(1)の説明事項、新医療センター整備基本計画（案）について説明をいただきます。

高野健康こども部長。

○健康こども部長（高野聡君） 健康こども部でございます。

新医療センター整備につきましては、今週月曜日、6月16日に医療・介護の有識者によります地域医療懇話会を開催させていただきまして、それぞれの専門分野からご意見をいただいたところです。議員さん方には、映像配信をご覧になった方も多いのではないかと思っておりますけれども、改めて資料の説明をさせていただきたいと思っております。

新医療センター建設準備室の桂田参事から説明します。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） ご説明いたします。資料1をご覧ください。

この資料ですが、6月16日の地域医療懇話会の資料と同じものです。事前配布しておりますことから、説明は簡潔にさせていただきますことご了承ください。

2ページ、はじめにで、これまでの様々な意見を踏まえて、計画案を取りまとめたといったことを記載しております。

次に、1のこれまでの経過です。

議員の皆様には都度ご説明してきた部分ですのでここも説明は省略させていただきます。

次のページをご覧ください。

2の地域医療奥州市モデルと新医療センターの概要ということで、お示ししております。

下の方にあります、市としては命と健康を守り支える地域の医療コミュニケーション拠点の整備検討を進めていますというものでございます。

次のページをご覧ください。

市民説明会の状況です。

主な意見として右下にありますとおり、慎重派、推進派両方の意見があつて、また医師会と対立しないよう求める意見も目立ちましたと捉えております。

次のページをご覧ください。

パブリックコメントの実施状況です。

6月2日までで37人の方から103件のご意見をいただいております。

いただいたご意見は市民説明会と概ね同じ傾向だったと捉えております。

次のページをご覧ください。

主な意見に対する市の対応方針について、ここも簡単に説明いたします。

(1)の医師確保に確実性がない、やはり医師確保は難しいのではないかとのご意見ですが、安定的な医師確保というのは確かに難しいです。

ただ、だからといって、必要な医療の提供をやめるわけにはいかないので、新たな病院の整備はやはり必要だと考えております。

(2)の収支見通しが甘い、安定経営の持続は無理ではないかとのご意見ですが、当面の資金繰りができますし、これも課題があるとしても、整備しないわけにはいかないと考えております。

(3)の市立医療施設の統合や県立病院との統合も検討すべきではないかとのご意見ですが、これは市立に関しては近日中に検討組織を立ち上げて、外部意見を取り入れながら検討を進めることとしております。

県立に関しては、それがなくなるという前提での検討はできないと考えております。

次のページに参りまして、(4)の疑問等が解消されるまで、白紙撤回又は一旦凍結とすべきではないかとのご意見ですが、現在出されている疑問点や不安点につきましては、次のステージで解消を図っていく考えとしております。

(5)の医師会との協議が調っていないのではないかとのご意見ですが、ここも整備事業は前進させつつ、あわせて、在宅医療などの各種課題にも取り組んでいくこととして、地域の医療関係者との協議連携を進めていく考えとしております。

こういった方針であることを踏まえまして、計画の修正状況をご説明いたします。

次のページをご覧ください。

基本計画（案）の修正状況ですが、左側が昨年秋の中間案、中央の列がそれに対する修正案、右側の列が今回のパブコメ等を踏まえた修正になります。

(1)の部分、在宅医療体制の強化を図るため、地域の医療関係者との協議連携を進めていく旨を追加しておりますし、(5)のスケジュールで基本設計時期などの微調整も行っております。

さらに、追加事項のステージ管理の部分で、各ステージの検証を通して、市民の疑問や不安を払拭していくということを改めて明記しております。

次のページをご覧ください。

第2部の病院施設の基本計画になります。

今回のパブコメ等を踏まえた修正としては、(10)の市立医療施設の最適化等の部分で、その検討に当たっては、外部の医療関係者にも参画していただくことを明記しております。

次のページをご覧ください。

第3部のコミュニティ施設の基本計画ですが、今回大きな修正はございません。

最後に7の計画策定に関する市の考えです。

基本計画案は、これまで様々な機会を通じてご意見をいただき修正を加えてきたこと、これまでの取組で意見はほぼ出揃ったと考え、概ね今回の修正内容のとおり決定したいこと。なお、疑問や不安の声が根強くありますが、それらは次の基本設計のステージで払拭できるよう、今後も必要な説明に意を尽くして参りたいとこのように考えているところです。

次のページをご覧ください。

基本設計等のスケジュールを載せておりますのでここは参考にしていただければと思います。

この資料の説明は、以上のとおりです。

本日、別添の資料として整備基本計画、その概要版、そしてパブコメの詳細資料を配布しておりますが、概略は説明したところでございますので説明は省略させていただきます。

これらとは別に本日追加資料として、地域医療懇話会の意見についてという資料も配信しております。

今、配信になりました。

この資料をご覧ください。簡単に説明いたします。

いろいろいただきまして、施設の運営体制に関するものとして、市立医療施設の集約や統合を検討すべきというのを複数の委員の方々から言われております。

それから、市立医療施設内の人事交流や職員の意識醸成が重要とも指摘されております。

それから、医師確保と同様、看護師や医療技術職、リハビリのスタッフとかのことですが、そういった確保もこれからは今後、困難になりますよねと。その人材確保には十分に配慮すべきじゃないですかというようなことも言われております。

それから、施設の機能に関するものということで訪問診療にも対応できるように看護師はやっばり増員がほしいですよねということを言われていました。

それから、まごころ病院の在宅医療、まごころ病院がしっかりできているので、そのノウハウを

活用すべきですよという話。

それから、介護施設のバックベッドとしてやっぱり市立医療施設はこれは必要なんだということも言われております。

あとそれから、在宅復帰に向けて入院患者向けの歯科、歯科といいますか口腔ケア、そういったものをやったほうがいいということで、そのための歯科医師を置くべきだというご意見もいただいております。

それから、リハビリの強化とか言っているけれども、計画が不十分だと、具体的かつ明確なビジョンを示すべきじゃないですかという意見。

それから、実力に合わせた計画を立てるべきだと、中身が伴っていないというご指摘もいただいております。

あと、システムの関係で情報システム費用が嵩むのでその選定については診療体制等を含めて、システムだけということではなくて一体感を持って選定しないと期待する効果が得られないですよというアドバイスもいただいております。

それから、計画を疑問視又は不安視するものということでやはり医師確保の点。

ここはやはり、不確実ですよと。それでは経営が行き詰まるんじゃないですかといった趣旨の意見をいただいております。

それから、計画策定の進め方に関するものとして、保健所主催で地域医療の将来についてやっぱりちゃんと協議が必要じゃないかと。新医療センターの必要性も含めて、そういったところも本当はやるべきじゃないかといったご意見もいただいております。

それから、東北医科薬科大学との医師派遣に関する連携の進捗状況について、今、どうなっているのか広報等でちゃんと市民に説明すべきじゃないかという意見もいただいております。

あとは、整備場所に関することで、コンパクトシティという考え方をもち出して、水沢エリアプロジェクトのところで掲げていたんですが、これは、水沢だけじゃなくて全体で考えるべきじゃないですかという意見もいただいております。

総じて市立医療施設の集約や統合に関する意見、あとは、人材確保に関する意見、そういったものが目立ったと捉えております。

説明は、以上でございます。

○議長（菅原由和君） 説明は以上でございます。ご質問がございましたらご発言をお願いします。

19番、及川佐議員。

○19番（及川佐君） 大きく2点伺う。

1つは、地域医療懇話会の件についてという追加資料が配布されました。

この中で、右の行、医師の問題で、「東北医科薬科大学との医師派遣」に関して簡単に書いてありますが、先般、胆江日日新聞でも、はっきり、副会長の本田先生が指摘した、結構強く述べられた意見とはちょっと違うような認識をしております。この新聞報道によると、私も当日は、話は聞いていました。ここに文章が、胆江日日新聞に書いてありますけれども、「道筋がついたかのような説明を市がこれまでしてきたのがは問題。変わったのであれば、明確に訂正すべきだ」と市の説明の姿勢を追及したと、また、同時に大学側から「困っている所を助きたい気持ちはあるが、それを材料に病院を建てられてもバックアップはできない」と発言があったと。市が示してきた前提そのものが成り立たないと強調したと。もちろんそのあと市長の発言も引用されています。

これは基本的に、この発言を見て明らかなんですけれども、そのあと亀井会長も発言なさってい

ますけれども、やはり今までの医師が確保できるというような、一種のその何とかなるような口ぶりだったのは間違っているのではないかというような当日の本田医師の発言だったと思うんですが、今回の追加資料によると、東北医科薬科大学の医師派遣に関する連携の進捗状況について、広報等により市民に説明すべきだと書いてございます。かなり、落差があったように私は感じています。これは、基本的な計画そのものに疑問を投げかけたのではないかと医師会の本田先生の話を受けました。

ところが、今回出ている追加資料は、広報等による市民に説明すべきだということで終わっていますので、随分、私からすると落差があるように感じますので、この点について1点伺います。

それからもう1点は、私は一般質問の中でコミュニティ施設の件を発言いたしました。25億8,000万円ほどかかるということで、これは問題ではないか、あるいは場合によっては、もっと削減できるんじゃないかと発言をしましたが、ここでも先日、廣野議員も議論の中で、1世帯当たりの金額がどうかという話もありましたし、今、いくら費用がかかるか、市民に負担がかかるかを明らかにすべきだと思うんです。例えばコミュニティ施設を25億8,000万円ですから、人口10万人と思えば1人2万5,800円だと。世帯当たりになれば5万円ぐらいかかるわけです。こういうことについてもう少し明確にすべきだと思うんですが、これについての考えを伺います。

以上2点についてお伺いします。

○議長（菅原由和君） 倉成市長。

○市長（倉成淳君） それでは、私から1点目について説明します。

ああいう発言が出ましたので、私、直接佐藤統括院長とメールのやりとりをしました。

その結果、基本方針は変わりありませんと。

ただし、これ時間がかかるんです。

私は、すぐできると言った覚えはなくて、東北医科薬科大学との、これ新しい学校ですから、繋がりを作ることによって、将来的な医師派遣につなげていくという話をしていて、それについては、基本線は変わっていません。

ただし、そのあとにいろいろ指摘されている岩手医科大学の派遣の話であったり、それから奥州医師会のいろんな意見であったり、その辺はやはりきちっと整理してくださいねという話が出ております。ただ、あの方が、ああいう発言をしたかどうかということに関しては、特に私は述べませんけれども、やはり基本線はずれていないということはお伝えしたい。

それから、議会でもお話ししましたが、それを将来的にスムーズに進めるために、大学との包括的な連携ということは、これからも行政でも進めていけますので、先ほどの問題ってのはやっぱり医師間でのいろんな調整が必要になってくるんです。

ですから行政でやれることは、これから塩竈市の例も含めて、着々と進めていきますということを私は議会で述べました。

変わっておりません。

以上です。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） コミュニティ施設の概算事業費、整備費がどのくらいかかるのか、それから、それで市民負担がどの程度増えるのかといったところが市民に説明されていないのではないか。それを説明していくべきではないかというご意見だったと思います。

それはそのとおりだと思っております、ただ、新病院とコミュニティ施設を合わせた複合施設

ということで、こちらはそれを一体的に整備することで効果が出るというようなコンセプトで今回、計画を組み立てておりますことから、費用を分けないで一括でお示しさせていただいて、実質将来負担といった辺りも両方合わせてということでこれまで説明してきております。

これからさらにそういう声もありますので、これからも様々な説明の機会があると思いますのでそういった際には、そのコミュニティ施設の分を少し内訳なんかも示しながら説明していく必要があるのかなと考えておりますので、ご意見のとおりには進めて参りたいと思います。

以上です。

○議長（菅原由和君） 及川佐議員。

○19番（及川佐君） 1点目の市長の発言ですが、今回は新医療センターでの医師の派遣なり、人材の確保なんです。先の将来のことを聞いているわけじゃなくて、新医療センターに間に合うように総合診療を含めて人員を補充する。そういう話のために、この議論をなされたと思っています。

将来、連携する、いつの将来か分かりませんが、それは長い将来それはあり得るかもしれない。そういうことじゃなくて、今、新医療センターの建設に関わっての議論をしているわけですから。その時に、人材が何とかあるっていうのは、新医療センターを作るための人材の問題なんです。だから、ちょっと論点が違うと私は思いますので、基本的な考えは別に良い、悪いと私は申しません。それは、今後ともやっていただければ結構です。けれども、今の議論とは違うということはお話しておく。

それからもう1点、公共施設としてのコミュニティセンターなので、これは2つを1つにする。要するに、新病院とのコミュニティセンター施設を一緒につくるということで、メリットもあるだろう。しかしながら、性格は全く違う。管理上も違うわけです。一方は病院、お金から言いますと、病院は一定の利益を上げなきゃいけない。33億円ほど、毎年1億円ほど負担がかかる。ところが、コミュニティセンターは全く市の公共施設なんです。これは、一方的に市が出さなきゃいけない。もちろんこれから維持管理もかかるわけですが、これは、病院会計と全く違うので、メリットもあるだろうけれども違うものです。

ですから、私お話したように、産後ケアなんか重要なので、あえて一緒にやる必要もないんじゃないか、いろんな考えあっていいだろうと。

要するに、一緒に作るっていうこともあるかもしれないけれども、もっと議論が必要と話したはずなので、基本的に根本的な議論でかかると思う。

そもそも1つに、病院と一緒にするかどうか議論すべきだと思っているんです。

産後ケアとか一部のものに関しては今の施設でも可能なんですと私は思うんです。

従って25億8,000万円、世帯数からすると一世帯5万円ほどかかるわけです。世帯数を4,000世帯、5,000世帯とすると、倍かかるわけです。これは、大きい金額なので、そういうことも含めてもっと議論すべきだと。

途中で、決まってから話すような話じゃなくて、一緒にすることが真の問題だと私は思っていますので、今話さないといけないと思いますが、いかがでしょうか。

この2点について伺います。

○市長（倉成淳君） 倉成市長。

○市長（倉成淳君） まず、1点目のご質問ですけれども、私、及川佐議員の認識と変わりません。4～5年後に医師派遣の具体策を双方で立ち上げるための交渉をしているわけです。

ここは若い医科大学ですから、これからどんどん研修生も増えてきますし、いろんな形で、彼ら

としては、医局が人が集まってくる体制になりますので、4～5年後、当然、新医療センター建設をめどに彼らとは話しているということで認識は同じだと思います。

2点目については担当から。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） コミュニティ施設については確かに病院施設と違って絶対にこの機能がこの施設になければならないといったところまで、枠が決まっているわけではないです。一部の機能を、例えば別の公共施設を利用するとか、そういったことの検討ができないわけではないです。

そこで、そういった検討を全くしないということではなくて、そういった検討をするにしても、結局、例えば、多目的ホールを1つつくればこのくらい費用がかかりますよとか、例えば、こういった相談室を4個つくるなら幾らかかるけど、6個なら幾らかかるとか、例えば、そういったところを見ながらやっぱり検討をしていかなきゃだめだと思っていまして、その際にやっぱり、基本設計作業の中である程度その専門家の意見も聞きながら、そこを判断していかなきゃだめかなと思っていて、今、本当に概算の段階なので、なかなかそこを明確に、この機能は省こうとかなかなかそういった判断は難しいものですから、ぜひここは次のステージでしっかり検討させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（菅原由和君） 及川佐議員。

○19番（及川佐君） 1点目の件ですけれども、この新聞にも書いてあるんですが、市長は新医療センター開設までの期間に医療教育やまちづくり、薬剤師の派遣などの包括的な連携を進める方針だと述べている、これは私が聞いています。

これは、これはこれで結構だと思うんですが、こういうことしか、今言った5年後に間違いなく来るという約束ができるんですか、こんなことは。こういうことを前提に、可能性はありますよ、否定する気はないけれども、今、医師が足りない、可能性があるということに対する答えにはならないと私は思いますね。

それから、2点目は基本設計に、別に作るとすればですよ、基本設計に関わってくるんですよ。まだ、中でどういうふうに分担するとか、面積を変える、枠内で広くする、それはそれならば、今の形を進めながら作ることはできます。

だけど、全く別に作ったり、別なところにそれを、例えば産後ケアを持っていくとすれば、基本設計そのものが変わってくる可能性があるわけですよ。

それを今後検討するっていうわけにはいかないと思うんですがいかがでしょうか。

2点お伺いします。

○議長（菅原由和君） 倉成市長。

○市長（倉成淳君） 私この前、議員説明会するときにも話しましたがけれども、医師確保っていうのは、本当に難しい問題だと思っています。

ですから、これはここだけじゃなくて全国的な問題で、ただ、医師確保策に対して無策なのかっていう話があったんで我々は東北医科薬科大学にアプローチしたわけです。

当然、ここにアプローチしたところで難しいという問題は変わりません。

ですから、そういう、オプションをいろいろ持っていないと、多分医師の確保ってなかなか難しいんで、東北医科薬科大学の話だけではなくて、我々の周りのコネクション、それから自治医科大

学のコネクション、いろんなものを合わせながら、この医療センターに向けて動いていくってことをそれについては説明しているはずですので。ですから、認識としてはひょっとしたら変わらないのかもしれませんが。医師確保は難しいことは常に話しております。

以上です。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） コミュニティ施設に関しては、そこで行うこととといいますか、そこで提供するサービスとといいますか、機能の部分を基本構想の段階から基本計画の中に盛り込んでいるんですけども、こういう機能を盛り込みます。妊産婦のケアであったり、子育て支援であったり、ヘルスケアであったり、あとは、医療介護連携であったり、そういった拠点に機能を持たせますということのコンセプトを示しております。

基本計画の中では、具体的にこういった活動を想定していますということで今そこは、そう考えていました。

ただ、それを実現するためにそれをハコモノといいますか、実際の施設に落とし込むときに本当に、どんな施設、広さ、部屋が必要なかっていうところは、やっぱり、次のステージでしっかり検証したいと思っておりますが、計画、そのコンセプトとといいますか、今回はお示しして、これまでもずっとお示ししてきて、特に市民からは、その反対の意見もなくここまで来てまして、こちらといたしましてはこのまま、特に修正する必要はないということでここまで来ているということはお理解いただきたいと思えます。

○議長（菅原由和君） 及川佐議員。

○19番（及川佐君） 同じことの繰り返しだから短くしますけれども、まず、2番目の方から。

それは、コンセプトに関わってくるわけでしょう。25億8,000万円かけるわけですよ。その中で、別棟だったらその必要性がなくなる可能性もあるわけですよ。だってそうしたらもう根本的な問題でしょうに。それを、これから何とか考えますっていうならば、まだ議論が進んでないということで、それを本来やってから考える。コミュニティセンターに関してですよ。病院の方は別にして、少なくともこれに関してはまだ議論が十分じゃないので、あわせて今、基本計画に臨むべきではないというのもこれもスジだと思うんです。公共施設として25億8,000万円かかるんですよ。これはこういう見解として。

それから、市長が言っているのも、要するにいずれそういうことに良くなるだろうと。こういうことやっておけば、医師確保にも前進するかもしれないということはそれはありうることです。

それはそれであるとは思いますが。ただし、今、先ほど何回も言っているように、新医療センターで医師確保の問題と絡めて、医師会も心配しているわけですよ。あたかも、訂正されなければ市民に誤った認識を与えるということ、誤ったということはあたかも来るんだっていうイメージを与えているんじゃないかと亀井会長もおっしゃっている。そういうことを変えるために、今回、それも市長は考慮して、広報等に市民説明すべきだところ書いてありますね。

でも、その程度で済む話じゃないと私も思っているんですよ。

広報でただ一方的に、こういうこと出せばいいという話ではないように私は先日の医療懇話会での発言を聞きました。もっとそれについて、単に説明すればいい話ではない。もっと根本的な問題を含んでいると思っておりますので、もっとそれは考えるべきだと思います。

以上2点、これは繰り返しですから、同じような発言でも結構ですが、一応そう考えます。

○議長（菅原由和君） 高野健康こども部長。

○健康こども部長（高野聡君） それではコミュニティ施設の件でちょっと私の方からお話をさせてもらいます。

全然検討してないみたいな言い方をされて、不本意ではあるんですけども、産後ケア事業に関しては今まさに県内でトップクラスを走っておりまして、今宿泊ケアができていますのはまさに奥州市のみになっています。

これは、水沢病院だからまさにできていると今思っております。

宿泊管理と食事提供ができるということが強みでありまして、これは他の市町村がなかなか真似できないということで、苦心しているという状況です。

これは、新医療センターに建て替えるとなればやっぱりそこでやるしかないと思っておりますので、それは絶対切り離せないものだと思っております。

当然のことながら、水沢病院のときに、感染対策があつて長く使えない時期があつたので、そこら辺の動線をどうするか次第によって、病院側でやるか、コミュニティ側でやるかっていうことが出てくると思いますけれども、基本そういった形で新医療センターでやるしかないという気持ちでおります。

また、病後児保育についても、今、水沢病院の脇でやっているんですけどもやはり支援病院の脇でやるっていうのが原則だと思っておりますので、これも当然、新医療センターの側でやらざるをえないだろうと今思っております。

あと、子どもの遊び場については、これはちょっと今メイプルの方でも、そういった機能を持たせる、持たせた方がいいんじゃないかという議論はされておるので、ちょっとここはそののやりとりは出てくるのかなとは思っております。

いずれ、そういった議論をきちんと重ねた上で提案をさせていただいておるものでございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○議長（菅原由和君） 他にございますか。5番、佐藤正典議員。

○5番（佐藤正典君） 5番、佐藤です。1点だけ聞きます。

資料3の17ページ、シミュレーションなんですけど、いただいた資料では、いずれ、入院収益が11億8,458万4,000円ということですけども、令和5年度の決算の水沢病院1日当たりの入院単価は、1日1人当たり3万8,345円ってところなんですけれども、一昨日の答弁でしたかでは、地域包括病棟導入によって数千円の単価が上がるだろうっていう話なんですけれども、これは、さっき言った11億8,458万4,000円を1日当たり66人、365日でかけると4万9,173円というところで、差額としては1万828円。1万円以上上がるわけですね。

何を言いたいかっていうと、単純にですが1日5万円程度の計算になるわけですね。1人当たりの、利用する患者さんの入院単価ですね。

さっきの話にちょっと戻りますけれども、仮に、5,000円の入院単価が高くなったとしても、令和5年度決算で比べれば、4万3,000円程度しか上がらないわけです。

それから、入院収益に関しても、令和5年度実績で6億3,157万4,000円ということなんですけれども、単純に令和12年から始まった場合に、1.9倍に売り上げが上がるっていうところなんですけれども、何をどうやって稼ぐのかなとちょっと単純に思うんです。

その点について伺えればと思います。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） 今すぐちょっとパッと資料が出てこないんですけども、確

かに5万円くらい、今平均で見れば、3種類の入院の区分があって、急性期の部分。あとは、包括ケア病棟、今もやっている部分。あとは、新しく1病棟は、地域包括医療病棟ということで、全部ひっくるめれば確かに平均5万円ということで、単価アップになるというところでございます。

言いたいのはそんなにならないんじゃないかっていう積算のことなのかなと思います。

こちらもちょうと一応、単価アップのところは見ていますし、あと、病棟の転換だけじゃなくて、胆沢病院の方からの、今、整形の先生も来たことによってリハビリもある程度を力を入れているもんですから、リハビリ目的の転院というのも増えていまして、1人増えると100万円くらいの収入、1人受け入れればです。そういった計算もあってそういった部分も何件か見ているという状況です。年間15件増えるということで試算はしているというところでです。そういったところで収入を稼いでいきます。

あと、今出ている数字っていうのが、令和5年度の多分決算とか、そういったところなのかな。6年度決算はまだ示していませんので、5年度の実績とかからだと思うんですけども、今年度やっぱりその整形の先生が来たことによって、億単位のやっぱり増収になる計画でおります。

強化プランでそういったところも見越していまして、一方でちょっと内科の先生に辞められたこともあってその分の減収の影響もあるので、楽観視はできないんですけども、そういったところで増収というのを見て、今からっていうよりは強化プランでこれから頑張って、収入を上げていくということにしておりますので、そういったところも見越して、その先の新病院ということでさらに、地域包括医療病棟への転換とそれに加えてプラス、胆沢病院の連携パスによる転院患者の増というのを見越して医業収入の増を見込んでいるという状況です。

○議長（菅原由和君） 佐藤正典議員。

○5番（佐藤正典君） 今、入院患者の話も出ましたけれども、令和5年度実績と比べても、1.25倍ぐらいに増えるわけなんですよね。見積もりからいくと、66人ってところで。そんなに増えるのかなって客観的に思うんですけども。

それから、さっき言った入院収益が2倍にもなるという、ちょっと、想像できないような見積りなんで、正直さっき佐議員もおっしゃっていましたが、医師もいない、失礼ですけども無理な見積もりで、何もしなければ10年後に資金ショートしますよ。これから物価高騰はまだまだ続きますよ。とすると、賛成する理由が全くないんですけども、そのことに対してどのように思っているのか伺って終わります。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） 新医療センターというより、これから水沢病院でどのように収入増を図っていくのかといったところの考え方につきましては、市民説明会の資料の中でも参考資料ということで、こういった取組で、整形でこのぐらいあります、あとは、リハビリ、様々な要素、定員の増とかと救急車をいっぱい受け入れて、救急患者から、確かに25%ぐらいは入院に結びつくので、そういったところで伸ばしていきますとか、そういったところを説明しておりました。

具体的な数字を掲げて、このぐらいの増収となる見込みと考えておりますというところをしっかりと示しておりましたのでそういったところをちゃんと着実にやっていけば増収を図れるものということで今は取り組んでおります。

以上です。

○議長（菅原由和君） 佐藤正典議員。

○5番（佐藤正典君） 何回もすみません、終わらせるつもりだったんですけども。今の水病さ

んのお医者さんの平均年齢は55歳なんです。5年後には60歳です。

さっきも佐議員もおっしゃっていましたが、何でしょう。東北医科薬科大学からの受け入れはちょっと事実上無理だろうっていう話も、可能性としてあるって言いますが、難しいことには変わらないと。現状のお医者さんで、やっていくしかないんですけども。

さっきも救急車の受け入れの話がありましたけど、年365日24時間の救急救命を高齢のお医者さんに失礼ですけども、やっていただくようなことはちょっと無理なんじゃないかと思えますし、仮に行ったらすれば医療ミスなんか繋がる可能性もあるんですけども、こういう問題をどう解決するのかちょっと伺って終わりたい。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） これまでの説明でも医師確保が本当に難しいっていうのは、そういう説明して参りました。

こちらで言いたいのは、本当に安定的な確保ってのはやっぱり難しく、医師確保が全くできないなんてことはないです。今年も先生に実際に来てもっている、小児科の先生にも来てもらっていますので、ただ、それが何で、将来、何年には何人来るとか、何年後にどの先生が定年退職されるがその代わりにどこから先生がいらっしゃるのか、そういった、計画的にといいますか、安定的な確保が難しいだけであって、やっぱり基本である、まず大学との関係を構築しているところ。

あとは、もちろんその紹介業者さんからの、そういったところでの募集っていうのも引き続きやってきますし、あと、医師奨学生もちゃんと、市だけじゃなくて県とか国保連の制度もあって、そういったところもちゃんと組んで、そこも定期的に奨学生の医師も来ることになっていますので、それが何の診療科の何を先生が来るのかっていうのもまたちょっとそこも確かにはっきりしてないんです。

2年後に来る先生が何の診療科の先生なのかっていうのは分からないんですけども、そういったところで医師確保はやっぱりこれからもやっていけるのです。これまでもやってきましたし、それがただ安定的じゃないっていうところで、さっきからどうもその、強弱の話とといいますか、確実なのかと言われると確実じゃないんですけども、ではこないだろうって言われると、いやいやそうじゃなくてちゃんとお医者さんは確保してやっていく。今までもしてきているし、確保できるつもりですっていうところの、何と言いますか、認識の違いなのかと思っていました。

医師がこないってわけではなくて、やっぱりそこはしっかり、奨学生医師も含めて確保はしたいと思っております。

○議長（菅原由和君） 倉成市長。

○市長（倉成淳君） 佐藤議員の質問ですが、率直に言わせてもらって、質問の前提となっているものが非常に、妄想とは言いませんけれども、エビデンスがないと思うんですね。

自分はこう思うっていうことをベースに質問されていますけれども、我々今までいろんな形で具体的なデータを示しているわけですよ。やっぱりそういうことをベースに質問していただかないと多分、本来の建設的な意見交換ができないと思うんですね。

ですからその辺は、これからちょっといろいろと検討していただければと思います。

○議長（菅原由和君） 佐藤正典議員。

○5番（佐藤正典君） 私、何て言うんですかね。今、すべて数字で話したんですけども、これ根拠がないんですか。そこがちょっと理解できないんですけども。

ちょっと話変わりますが、1件だけ聞きます。

先ほど、地域医療懇話会の話の中で、まごころ病院のノウハウを活用すべきっていう話がありましたけれども、私もこれ正解だなと思っていました。委員会の方がおっしゃっているんですけども、ちょっと無理な、なんて言うんですかね、シミュレーションの立ち上げで、これを無理強いな形で通すっていうのがちょっと理解できないんですけども。

まごころ病院の在宅医療のノウハウも活用する考えはあるんですよね。

それだけ聞いて終わります。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） しっかり活用して参りたいと思います。

○議長（菅原由和君） 4番、門脇芳裕議員。

○4番（門脇芳裕君） 4番門脇です。1点お伺いします。

資料1の6ページ、5、主な意見に対する市の対応方針とあり、(3)、市立医療施設の統合や県立病院との統合についての質問があって、一番下の段、県立病院は当圏域に必要で、それがなくなるこの前提で議論はできないと考えますっていうのは、結局統合をすることの検討に対して、我々はどういう解釈をすればいいのか伺う。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） 県立病院との統合も検討すべきじゃないかというまず背景ですけれども、今県立病院の方もかなり経営が厳しくて、公立病院全般なんですけども、そういう中で、そのうち江刺病院がなくなるんじゃないかっていうことが、そういう噂と言えればそういう考え方が結構思われています。

そうであれば水沢に集約するんじゃなくて江刺の方に、市立の病院を江刺病院と統合して、江刺に市立病院を設ければ安定的な医療が確保できるので、そこをちゃんと検討すべきじゃないですかっていうことを言われております。

ただ、こちらの考えとしては、それぞれの圏域にやっぱり身近な医療を提供する医療機関が必要で、公立で今、全部の地域がカバーできています。

なので、江刺地域にはやっぱり江刺病院が必要だ。水沢地域にもやっぱりその地域を、奥州市全体だけじゃなくて水沢地域のことも診る、身近な医療を提供する病院も必要だと考えておりました、そして、そのことについて県の方では当然江刺病院をなくすなんていう考えは全くなくて、いやただ、奥州市の方から相談があれば、そこは協議しなくもないですよみたいな、ということで、まずは奥州市の方で態度を決めてくださいというようなお話だったものですから、こちらとしては先ほど言ったような考え方で、では、江刺には江刺病院が必要だという考えですので、それがなくなるという前提で、統合といったような協議は考えていないです。

あと、同じく、もう1つの胆沢病院も今基幹型の病院で、それこそなくてはならない存在なんですけれども、周産期医療も数年前になくなって、今年の春からは脳疾患血管は全部磐井病院の方にその機能が移りまして、この胆沢病院はもしかしたらなくなるんじゃないかと思っている人もいて、そんな話もちょうと聞こえるんですけども、それすらも本当に噂レベルでここから基幹病院がなくなるなんてことも市としては考えられませんので、そういったことを前提にした統合の議論はできないという考えでいる状況です。

○議長（菅原由和君） 門脇芳裕議員。

○4番（門脇芳裕君） ありがとうございます。

結局、なくなっていくということを前提で、統合を検討する可能性があるっていうことですか。

○議長（菅原由和君） 質問を終わっていいですか。

○4番（門脇芳裕君） すいません、県立病院がなくなることが前提であれば、統合も検討する可能性があるという解釈でよろしいですか。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） 市民の方からの意見あるいはその医療関係者から言われるところとしては、江刺がなくなる、今後なくなるかもしれない。江刺地域に病院がなくなったら困るから、何とか市立と一緒にその存続を図るべきだっていう、意見です。

だから、こちらとしてはなくならないと思っていますので、なので協議は必要ない、検討の必要はないということで考えています。

○議長（菅原由和君） 門脇芳裕議員。

○4番（門脇芳裕君） 結局、なくならない。だから検討するってことですか。

なくなるなら検討はしない・・・

○議長（菅原由和君） ちょっともう1回整理してから質問してください。

門脇芳裕議員。

○4番（門脇芳裕君） すいません、後ほど、直接聞きます。

○議長（菅原由和君） 7番、佐々木友美子議員。

○7番（佐々木友美子君） 先ほどの佐藤議員と、桂田さんとのやりとりの件の確認なんですけれども、整形の先生がいらして、胆沢病院からの転院の患者さんが増えるっていうことで増収っていう件の確認なんですけれども、実際、私自身は新医療センターの建設を賛成の市民の方の声と、自分の体験と重ねてさっきの話は、桂田さんの言う話は納得できたんですけれども、去年母は、大腿骨骨折で胆沢病院に入院したときやっぱり2週間しかあそこには入れなくて次リハビリっていうときに、奥州病院しか空いていなくて、選択肢がなかったんですけれども、今度、水沢病院に中村先生がいらしたっていうことで、そのリハビリが水病にも、胆沢病院から来ることによって入院患者が増えるから増収になるっていうのは、そういう、私の今の理解でいいんですよねっていうことと、やっぱりその賛成の市民の声の中には、かつて中村先生がいたときのことを思っていて、今度中村先生が来たから、水沢病院の患者さんすごく増えていいねってような声があったっていう、それらのことを想定して増収を見込まれたっていうことでよろしいでしょうか。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） これは市民説明会の資料、今年度4月16日の全員協議会のフォルダに新医療センターの市民説明会の資料が載っています。

<資料配信>。

この15ページ。ここで水沢病院の令和7年度以降の収入確保策を記載しておりました。

整形外科医の着任によって入院患者さんが7人から9人増えると見込んでおりますし、あと外来の患者もそれなりに増えると、手術の件数も増えると。

手術をやるとやっぱり収入としては大きいですから、そういったことで経費を差し引いても、大体1億2,000万円から1億8,500万円ぐらいの増収っていうか、利益が上がる効果があると見ております。

あと、救急車の対応の台数の増ということで年間受入50件増えれば、大体800万円ぐらいの効果があると見ており、例えば、金額は大きくないんですけれども、今検診なんかも一生懸命力入れて、週3回のところを週4回に増やしたり、あとMRIで、がん検診ということで無痛の乳がん検診な

んていうのも今年の3月からですかね、新たに始めておりますので、あとそれから最後に連携パスということで、県立病院から連携パスということで年間5件くらいは受入増を目指していますし、あと、リハビリ目的での転院っていうのもあります。

ただ先ほど言われたとおり、大腿骨骨折なんていうと本当に濃密なリハビリが必要ですので、そうならばそこを専門にやっているのは、回復期リハ病床を持っている奥州病院さんになります。ある程度の本当にリハビリの期間も結構長くもたないと駄目ですので、水沢病院ですと大体平均の入院日数が15日から20日くらいの間です。それに比べても、あと何十日とかすれば奥州病院さんの方になるので、そこはその症状によって分けますけれども、少なくとも、整形の先生が来たことによってリハビリ職も増やしていますので、そういうリハビリ目的の患者さんも、前よりは増えているということで、それが奥州病院よりもいっぱい来るとそういう話ではないんですけども、そういう状況です。

○議長（菅原由和君） 2番、宍戸直美議員。

○2番（宍戸直美君） 2番、宍戸直美です。

何点かお伺いしたいんですけども、まず今、質問にありました地域医療懇話会で出された東北医科薬科大学との包括連携についてですけども、やはり伝えるのと伝わるのっていうのは違うと思うんです。

市長の方向性はすごくよく分かるんですけども、今の段階としては、医師派遣の包括協定と思っている市民の方が多いのではないかなと思っています。その点についてはやはり、新聞にも掲載されて市民の方が困惑されているのかなと思いますので、そういった協定ではないんですけども、やっぱりそのまちづくりとしての人材を育てていくような協定で、そういった方向のものだけでもと言ったところの部分は市民の方に説明が必要なのではないかと思う。その点については、加えていただきたい。

2点目ですけども、建設地についてのパブリックコメントの主な意見として、資料1の5ページに、施設の規模や整備場所に関するものとして、水沢公園に整備を望むと記載がされていますけれども、こちらのパブリックコメントを拝見したところ、やっぱりそうじゃない意見もありますので、もしも記載する場合は、水沢公園への整備を望まない声もある一方で、望む声もあるという記載にさせていただければと思います。

3点目ですけども、パブリックコメントの意見を見ますと新医療センターができれば、産科や小児科が充実すると思っている市民が多いのかなと伺いましたので、そちらについては新医療センターが建設されても、産科は考えていないという丁寧な説明が必要なのではないかと思いました。

また、また小児科の充実っていうところも、新医療センターができれば今、水沢で一番小児科の充実を皆さん求めているんですが、そこは解決すると考えていらっしゃる。そういう意見がすごく多いなと思いますので、そこについても、もう少し丁寧な説明が必要なのではないかと思います。

4点目ですけども、資料3ページの収支シミュレーションの部分ですけども、このシミュレーションにもし今からでも追加ができれば、内訳、このいただいたこの資料を添付していただけないかと思います。

やはり、収支シミュレーションを見ますと、10年後の資金を残せるのが2,600万円ほどとありますけれども、この収支シミュレーション見ると、一番の2040年問題の累計はマイナスの計算になるのではないかと思いますので、もし、できることでしたらこの2040年、どれほどのマイナスになるのかっていうところは、ちゃんと市民にお伝えしなければいけない部分なのではないかと思いますが、そ

の点について伺います。

以上です。

○議長（菅原由和君） 倉成市長。

○市長（倉成淳君） 議員が官学の協定にどれだけ時間がかかるかっていう想定をしているかわかりませんが、私、東北医科薬科大学との話を12月から始めています。それで協定っていうのは、早くて、本当に急いで何もなくて半年、それで通常は1年から2年かかるものだと思っています。ですから、さっきも言ったように基本方針は変わっていないので、これは協定が今ないからどうのこうのって話じゃないんです。協定に向けて動いているのは、現時点の動きなんですだからそれは理解していただきたいと思います。

以上です。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） まず、場所、パブコメの示し方で場所の問題、水沢公園への整備を望むということが、内訳の資料も添付しておりましたのでそれを見ていただければ分かるんですけども、みんなバラバラの意見でして、たまたま水沢公園の整備を望むっていうのが2件だけ、あと、反対の意見ももちろんあったんですが、それがみんな1件ということもあって、単純に、件数が多いものをピックアップしたら、こう載ってしまったということです。今回内訳の資料もちゃんと示していますし、あとこれは市民向けの資料じゃないので、まず、今回は、これで勘弁してくださいという話なんですけど、今後、市民に示すときには確かにバイアスがかかるような載せ方というのは確かに問題だと思いますので、そこはちょっと次の機会には、ぜひ修正といいますか、きちんとした対応をさせていただきたいと思っております。

パブコメで、新医療センターができるのと産科が充実になるって思っている声っていうのは、103件私も全部見ましたけれども、あんまりそういった意見は、市民がそう思っているようですよっていう意見は確かにあったんですけども、新医療センターができて、産科ができるのを喜んでみますみたいな、そんな意見はなかったもので、多分そういった意見はそんなにまだ多くないのかな。これまでずっと一貫して説明して参りましたので、そこまでは思っていないのかなと思っております。

小児科の方も、やっぱりその小児科をこれからも維持して充実させていくためにはやっぱり新たな施設が必要だっていう考えは、変わりません。

なんですけれども、それを裏返しにして、逆に新医療センターができるから小児科は万全なんだっていうことをお示ししているつもりもなくて、そこはそう勘違いされていると言われると、今回いただいた意見の中からそう読み取れるようなちょっと資料はないんですけども、もしかしてその周りの方からそう思っている方がいらっしゃるといふ情報であれば、それは1つの情報として受け止めたいと思います。

それから資金収支の内訳を示すべきじゃないかっていうことでした。このシミュレーションで一番伝えたかったことは、最初の10年は持ち込み資金がなくても、資金を減らさずに何とかやっていけるっていう、そんなに悲観するような内容じゃないっていうことをお示したかったと、それがねらいの資料です。

事細かく内訳を示したところで申し訳ないですけどもなかなか病院経営の内側を、こんなんだからこれは信用できるとか、これは信用できないとか、ということにはならないと思っていました。

これまでの経験からいって、あまり細かく載せ過ぎたところで、かえって混乱するだけで、やはりなるべく説明はシンプルにしていくべきものと思っております。

2040年、この次の年っていう話もありますけれども、こちらとしてはまず区切りのいい最初の10年ということで整理させていただきましたので、ご了承いただきたいと思います。

以上です。

○議長（菅原由和君） 宍戸直美議員。

○2番（宍戸直美君） ありがとうございます。

包括連携については、ホームページで調べれば塩竈市と東北医科薬科大学との連携について内容が出て来ますので、市長の考えはよく分かるんですけども、私でもあんまりちょっと今理解してないので、市民の方も今の説明では何かこう伝わってないような気がするので、そのような包括連携の内容についてもしっかりと説明をお願いしたいと思います。

あとパブリックコメントの建設地については分かりました。今度からそのようにお願いします。

あと、3点目ですけども、ちょっと私の説明が悪かったなと思うんですけども、このパブリックコメントを見ますと、やっぱりその産科の設置を望む声であったりとか、小児科の充実の声っていうものがあるんですけども、やはり今の医師の不足っていうところで、周産期医療っていうのはもう本当に難しい状態であるっていうのは、何回も説明はしていただいているところですけども、こうやってパブリックコメントに意見があるということは、新医療センターができれば、やっぱりそこを期待しているんじゃないかなっていう感じも受けますので、そういったところで先ほど質問したところで、ちょっと私の説明が悪かったと思います。

あと、小児科の充実については、土曜日ですか休日の診療を増やすということが期待であったと思うんですけども、小児救急であったりとか、今後今胆沢病院でも最近、担い切れていないような小児救急であったりとかは市としては、今後はどのようにその新医療センターに組み込んでいくのか、そこについて、そこ本当に市民の望んでいるところなので、もう少し説明をいただければいいなと思います。

4点目の収支については、やはりこれ見るだけでも2040年がマイナスになるっていうのは、何となく分かることなので、これを2040年問題として新医療センターに取り組むということは、ここまでの収支は一応書いていただきたいと思います。

私、何となく、今回の件ですごく思うのが、新医療センターを建設すれば今までの課題が全部クリアされるような、何となくそういう説明にも至っているような気がしてしまっていて、新医療センターが建設されてもその医師の確保っていうのは難しい、将来への財政負担はすごく大きいっていうような、ちゃんと透明性を持った説明を市民の皆さんにさせていただきたいなと思います。

分断されるような、やっぱりこういう体制っていうか、こういった流れで進んでいくよりは、やっぱり最終的にはすべて腹を割った説明をしていただいて、将来への負担はすごくかかるけれども、新医療センターを建設しないと市の医療が賄えないっていうのをちゃんと説明していただいて最終的には住民投票っていうところで、市民に判断を任せるっていうのが、私は一番いいような気がしますけれども。

ちょっと、その点については、私の意見として述べさせていただいたので、答弁とかそういうのはありません。

以上です。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） 主に小児科の充実の部分おっしゃるとおり休日といったところ、土日とかの診療を求める声もありますしあとは、この圏域で小児救急今胆沢病院だけでやって

いますけどもそういったところも、本当はバックアップできるような体制になればいいと思います。

そういったことも書きたいんですけども、やっぱりそうなってくると、小児救急とか、あとは、小児の入院、そういったところを診るためにはやっぱり常勤の先生がもう1人くらいほしくて、さすがにちょっとそこまでは、今からさらに小児科の医師をもう1人増やしますと言ってもそれこそあてのない話なので、なかなかそこまで踏み込んで書けなくて、小児救急まではちょっと、今は考えていないところです。

ただ、休日の方の診療は可能で、前いらっしやった小児科の先生はちょっと前向きだったので、これはいけるかなと思ったけれども、ちょっと事情があって今は辞められましたけれども、ただ方向性としてはやっぱりここは必要などころだと思っていますので土曜日の診療なんかも新医療センターの中では考えていきたいと思っています。

あとそれから資金収支、やっぱり資金収支だけじゃなくて医師確保についてもそうなんですけども、これまで説明してきた中で課題は何もない大丈夫やれますから、だから、新医療センターを建てるんですっていう説明ではなくて、やっぱり医師確保は難しい。資金収支だって、何とかこういう条件で試算すれば10年間は持たせられる。

ただ、その先はって言われたときにやっぱり、今見通せる範囲では、11年目以降のところってのがなかなかやっぱり見通せる状況ではないです。さすがにそこまで、なんて言いますか、背伸びできないといえますか、こちらに都合のいいような、診療報酬がもっと増えるだとか、国の支援策ができるとか。今国の方へもいろいろ要望をしていますから何かそういったところあるんだとは思いますが、そういったことが、この見通しの中に組み込めるわけでもなく、なかなか今の与えられた条件の中でシミュレーションするとすると、最初の10年間程度しかお示しできないというのが実態でございます。

で、課題がないって言ってきたつもりは全然なくて、一貫して課題はあるんだけど、それでもその一方で、今の水沢病院の機能も必要だし、2040年問題に向けて、今からしっかりそれに対応できる新たな医療ニーズにも応えていく体制もつくらなきゃだめだと。そのために、やっぱり今から新医療センター整備を進めていかなきゃ駄目なんだということを説明してきたつもりです。課題は確かにあるのです。

これも解決しなきゃだめなんですけれども、それもまた時間かかりますので、それも一緒に解決しないではなくて、それも並行しますけども、これから一緒にそこは解決に向けていろいろ医療関係者の方々とも話し合いを進めていくと、そういう状況でございます。

○議長（菅原由和君） 倉成市長。

○市長（倉成淳君） 地域医療問題についてちょっと述べさせていただきます。やはりこれ、市立病院だけで解決できるような問題ではありませんし、基本的には地域医療っていうのは、都道府県が計画を作って、それを推進していくという形になっています。これは、厚生労働省の方針です。

それで、奥州市、胆江医療圏については、地域医療の胆江医療圏の連携会議というのがございまして、そこには県立の病院長もすべて関係者が入って、毎年協議されているんです。

その中でさっきおっしゃった小児科医の話が出ました。周産期も出ました。その時に両県立病院長が話したのは、あときは川村先生と郷右近先生でしたけれども、分娩の施設を持ってくるっていうのはやっぱりこれ無理なんですと。ただし、郷右近先生の方は、胆沢病院には、小児科医の招聘をずっとお願いしているという話在那个とき出ました。

やっぱりこの県域、小児科医の、やっぱり何ていうか厚さがなくて、我々も県に、最近もです

けれども問い合わせたところ、胆沢病院の小児科医の招聘っていうのはずっと言われていることなので、優先順位が高い課題になっているっていうお答えはいただいています。

ですから、この圏域でどうするかっていう発想にならないと、広域のもの、周産期、それから脳外科、そしてこの小児科医っていうのは、そういう視点で県の方は捉えているんで、それを理解した上で質問してほしいです。

○議長（菅原由和君） 宍戸直美議員。

○2番（宍戸直美君） 分かりました。

そういうことであれば県と協議していただいて、やっぱりそういった胆江地域の医療圏について、もし具体的に、全体的に考えていただけたらと思います。

すいません1点、言い忘れたんですけども、資料2、基本計画案の73ページ、コミュニティ施設部門のところですけども、今の段階でこのコミュニティ施設については、まだ明確な内容というのは、決まってないというところで、子育て・子ども支援のところの「こどもの遊び場」や、「学習室」のところなんですけど、年代で分かれていたりとか、「学習室」は中高生を想定しているということなんですけども、なるべく「こどもの遊び場」については、今の段階で自由度がなくなるような、年代で分けるとか、中高生を想定しているっていうような文面はない方が、今後、考えやすいのではいかと思います。「学習室」も小学生も利用するのかもしれませんが、できるだけまだ自由度が高い方がいいのではないかと思いますのでその点についてよろしくお願ひいたします。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） ありがとうございます。

そうあまり、詳しく書き過ぎないほうがということですけども、一応こども、中でいろいろ議論しましてこういう部屋ほしいということでこういう、一応、設定しております。おっしゃるとおり細かいところは検討していく中で少し、こっちの方がいいんじゃないかというようなこともあるかと思ひますので、今言われたようなことを踏まえて、そこはこれから検討してまいりたいと思ひます。

○議長（菅原由和君） ほかに。

暫時休憩します。

~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~○~~~~~

○議長（菅原由和君） 再開します。18番、廣野富男議員。

○18番（廣野富男君） あまり時間がないようですから、できるだけ絞ってお伺ひしたいと思ひます。

まず、医師確保の部分、どうもこの間の医療懇話会のそれぞれの先生が言っている、東北大学あるいは医大から先生の派遣が難しくなる、なったとかなるとか。

あと、今も言われていました、東北医科薬科大学も今はその5年後を目指して協議をしているという話があったんですけども、実際どうなんですかねと。担当は頑張るけれども、来ないかもしれないし、来るかもしれないと。そういう中で進めるのだよと我々は捉えればいいのかどうかということを確認したいと思ひます。

それで、様々な企業経営の中でリスク管理はされると思うんですが、今回の病院経営の中で想定しているリスク、想定外、これは当時計画したこととは違ったことが、事態が起きたという事象が今考えられるとすればどんなことがあるかということお尋ねしたいと思ひます。

2つ目は、私もこの、資金収支シミュレーション、それぞれその試算の条件はあります。

ただその、例えば、令和12年のこの金額、収入、支出額、これは、1億3,300万円がプラスになりますということです、今までプラスになったことがないのに、なぜプラスになるのかと。これは、ごく普通に、市民の方々が思うことであって、しかも、収入は微減ですけども、支出はほぼ同額なんです。この間の説明では、病院経営は、医業収益は頑張ってきましたと。ところが医療資材等の高騰で残念ながら支出は大幅に増えましたという現状を見たときに、ここのシミュレーションがちょっと甘過ぎるんじゃないですかと。これを見直すのかどうか、その点についてお伺いをします。

それとちょっと私、桂田参事の言い方なのかどうか分かりませんが、この新医療センターは身近な病院として必要だと、水沢地域を守る病院が必要だという発言をされたときにこの医療センター、水沢病院というのは、これは水沢地域だけを考えたものなんですかと、ちょっと私、聞き取ってしまったんですが、そういう考え方で本計画は立てられているのですかということをもっとお尋ねをいたします。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） まずは、リスクといったところでどんなリスクを想定していますかということだと思います。整備事業ということでよろしいのか、いろんな様々なリスクあります。例えば、工事費の資材費がこれからもまだどんどん高騰していくんじゃないかとか、あるいはいろんな公共事業が入ってきて、病院建設、そういう設計屋さんあるいは、工事施工業者が入札に応じてくれるかどうかとか、プロポーザルに応じてくれるかどうか、そういったところの様々なリスクはあります。

だからこの、なんていいますか、バラ色の未来が待っていますってことではなくていろいろこれからいろんなところを様々、リスク管理をしながら進めていかなきゃならぬと、楽観視しているんじゃないかということをお願いのしたいと思いますので、そういうことなくそこは気を引き締めてしっかり取り組んで参りたいと思います。

あと資金収支のところでは2点、1つは黒字化になっているように、ちょっと1億円の黒字化になっているけどこんなことあるのかというお話だと思います。今までいろんな決算とかで、赤字だ赤字だと言っている部分はいわゆるその経常収支だったり、純損益っていったところの話です。

ここちょっとミソになっているのは現金分っていうポイントでして、実際の収支の状況で言いますと減価償却費とかが大きいんですけども、そういう経費、建物の整備費用を分割して、各年度には振り分けるために、経費を分散するためにそういう経理上の操作があるんですけども、これ支出になるんですけども実際には現金は出ていかないものですから、今回新しく建物を建てれば減価償却費もうんと増えます。実際4億円くらい、減価償却費が増えるので、そうすると収益的収支も単純に言うと実は赤字です。

ただ、中身を見ると、現金分だけで計算するとこのように実は、資金の方は何とか増える見込みですというからくりになっております。それが、資金収支って言っているのはそういうところなんです。

それから、収入と支出、収益的収支のところでは、収入は徐々に減っていくんですけども、支出はそんなに大きく減っていないという部分です。ここも一定程度固く見ていまして、収入の方は、人口減少していくってのがもう明らかですから、最初から始めると、人口が93%ぐらいにやっぱり減るっていうのが見えてきているので、そこを反映させ、単純に収入を人口減少の減少率に合わせて段階的に割り落としをかけています。

支出の方は、例えば建物の光熱費だとかあと清掃とかの委託料だったり、あと、人件費なんかもう固定費ですので、そうそう簡単には落ちないです。落ちる部分っていうのが、収入額に応じて例えば医薬材料、病院の中で使う包帯とか薬代です。そういったものは患者さんの数に合わせて減らしていきますけれども、それ以外に固定費の部分が結構大きくて、なので支出の方はそんなに落ちてなくて、だんだんちょっと収支の方も悪くなっていくっていうような見通しを立てて、それでも何とか10年は大丈夫、資金持たせるような、シミュレーションになっていますっていうのが今回の資料の中身です。

あと、水沢病院といいますか新病院の機能の部分で、水沢地域のためっていうことではないです。ここがちょっと誤解されると困るんですけども、今の水沢病院のその機能っていうのも、ここ胆江管内全域の救急を受け入れたり、あとは専門領域の部分で、いろんな専門の診療科ありますので、常勤の医師だけじゃなくて応援の先生にも来てもらって、専門の外来を持っていますから、そういったところはこの圏域全体を見えています。

ただ、その一方でやっぱり水沢地域にあるものですからやっぱり水沢地域の方々がその身近な医療、慢性期の治療であったり、そういったところで来ていらっしゃるってのも事実です。

なので、水沢地域だけの病院ではないんですけども、そういうそういった機能を一部持っているもので、先ほどのような表現になってしまったと。で、新医療センターの方は急性期であるとか救急対応っていったことあるいは感染症もそうですか。そういった、全域、胆江圏域全部見ている部分もありますし、水沢地域の、なんていいますかかかりつけ医の役割として身近な医療を提供している機能もありますので、それはしっかり、継ぎたいですし、それに加えて、今度はもう2040年問題に向けて地域包括ケアシステムに資するいろんな在宅のこととかそういったところもプラスしてやってかなきゃだめなので、それが新医療センターの役割だということで説明してきています。

以上です。

○議長（菅原由和君） 廣野富男議員。

○18番（廣野富男君） 私はシミュレーションの件をちょっと話をすると、いずれこの物価高騰、これ前におそらく策定されたシミュレーションだと思うんですけども、やっぱりそれを反映してここは、本当になんていいますか、現実的な数字をやっぱり出すべきだと思いますのでその辺は、善処していただきたいと思いますし、私、この今までの説明の端端にどうも引っかかるのは、水沢地域、水沢にあるから、あるいはここは中心地だから水沢病院のあったところに、新医療センターを作るというふうに、どうもそういう説明になっていますので、なかなかそうでない人から見ると、いや、それで本当にこの胆江圏域、あるいは奥州圏域を見る病院なんだろうかとちょっと疑問になりますのでそこは注意をしながら計画は立てて、立て直していただきたいと思います。

最後になります。もう1人、伺いたい方がいるようですから。

この資料1の7ページ、主な意見に対する市の対応方針で、よく言われる、疑問を解消する1つの手段として、「次のステージである基本設計の段階でさらに検証する」という表現があります。これはどういう意味なんだろうかと。

私、基本設計っていうのは、早い話が、個人の住宅であればこんな家を建てたいって言ったときに、基本的な間取りなど、キッチン、フロア、どれぐらいの規模で、詳細設計までいかにして作るわけですね。これはもう建てるという前提になるわけです。その中で、各ステージで検証とか、この計画が変更などできる、そういう流れにしているということなんだろうかと。

その点について伺います。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） 水沢病院の機能というところについては、なかなかちょっと、いずれ、新医療センターっていうものが、やっぱり今の救急の問題であるとか、全域の救急対応とか、感染症対応はもちろんやっていますし、やっぱり、2040年問題に向けて新たな高齢者も増えていくといったところも踏まえて、そういったところを対応していくための新たな機能だと。それに加えて、ただの病院ということではなくて、やっぱりそこはコミュニティ施設の併設をして、コミュニティホスピタルという考え方も取り入れながら、いずれ奥州市民全体の健康を守っていくための施設だという位置付けでございます。

あと、シミュレーションの方は、ちゃんときちんと精査してほしいということだと思いますので善処いたします。

それから、その次のステージで基本設計の段階でさらに検証ってどういうことだというお話だったと思います。

1つはその施設の整備費や維持管理費なども本当に概算なので、そういったところはしっかり精査してまた改めて説明したいと思っております。

基本設計の方も、仮に入るとすれば例えば、今議会で予算をもしかしてご議決いただけたとして来月から早速基本設計の作業に入るかっていうと、ちょっとスケジュールのところでは今日は説明しなさいましたけれども、発注準備ということで3か月半くらい、実際には10月半ばくらいまで、今回の基本計画を基に事業者さんにプロポーザル、公募をするときに、こちらではこういう建物を考えていますというふうに落とし込みをします。設計屋さんに分かるようにといたしますか。そういったところでそういう作業もまだありますので、そういった中で、やはりもしかして計画の方もここちょっと、設計に出すのにおかしいねとかそういったところがあれば、やっぱりそこを修正する部分もちろん出てくると思いますので、一定程度その計画の方の修正というのも出てくると思っています。ただ、大きく変えるつもりはなくてやはりコンセプトはこのとおりでいきたいという思いはそのとおりでございますので、まだまだその説明が尽くせていないと指摘されますのでやっぱりそこは引き続きしっかりお伝えしたいというところでございます。

以上です。

○議長（菅原由和君） 10番、及川春樹議員。

○10番（及川春樹君） 10番及川です。

整備計画のちょっと質問が合っているか分からないんですけども、医師の定着の部分でお聞きしたいと思います。

随分前の全員協議会でも同様の質問したわけですけども、当時桂田さんからは、定着に向けて、例えば雇用面での改善などを検討して、大きな課題として認識しているというような話があったわけですけども、それ以降なかなか具体的な方策は出てこなかったのが一般質問でも1つの方策として提案したわけで、やっぱり今回、整形の方の設備を更新するというんですかね、それも1つなのかなと思うんですけども、それを考えますと、他にいらっしゃる先生方も何かしらそういった環境改善だったり、もろもろの改善というものを希望されているのかなと思うんですけども、医療局としてはその確保、定着に向けてどのような方策をこれまで検討してきたのか伺いたい。

○議長（菅原由和君） 浦川経営管理課長。

○経営管理課長（浦川敏明君） それでは私から、医師の定着に向けての取組というところですが、今回補正予算で整形外科の先生の機械の整備ということでの補正予算を出させていただきました。

病院内には機器等整備検討委員会がございまして、その中で病院がどういう機器等を整備するのかというところを検討していく組織もございまして、そこで先生から要望があったものについて、どういうものを更新していくのかという辺りを検討しながら、整備等をさせていただいています。全部の先生のご意見を全部聞くというような形にはならないのですが、やはりそこは病院の中で重点的に、どういう部分に力を入れていくのかという部分がありますので、そういうところ先生のご意見等を聴きながら、先生のご意向に沿うような形での整備等を進めているというような状況でございます。

あと、働き方等につきましても、いろいろ研修なされたいとか、そういうお話を受けてとか、そういう、個々に先生のご希望等をお聞きしながら、長くいていただけるような取組を進めているというような現状になっています。

○議長（菅原由和君） 及川春樹議員。

○10番（及川春樹君） ちょっと時間ないんであれなんですけれども、ちょっと何か分かったような分かんないような感じがして、やっぱりもう少しこう、分かりやすいついていいですかね。なんか、そういった工夫っていうのを何かしらやっぱり示していただいた方が、やっぱり、議会としても安心感につながるかと思います。見解があればお聴きしたい。

○議長（菅原由和君） 桂田健康こども部参事。

○健康こども部参事（桂田正勝君） 医師の定着に向けてということで先生のご意見、ご要望を聞きながらいろんな取組はしているんです。細かいところをやっていますので、そういったことをなるべく目に見えるようにということだと思いますので、機会を捉えてそのように努力したいと思います。ありがとうございます。

○議長（菅原由和君） 中西秀俊議員。

○23番（中西秀俊君） 全協の場ですから、若干ずれるかもしれませんが、一言だけ。

この地域、本当に皆様とともに、合併前から、旧市町村時代から課題があって、さらには、震災やコロナといった困難をくぐり抜けながら、市民の暮らしを守ってきた。現場の声を聞いて、病院にしる、続けてきたというのが実態だと思います。

そして、今回、新医療センターの構想については、決して軽い判断では済まされないと強く感じております。

今議会にも請願が4本上がっている状況の中で、最後は議会の判断という言葉が市長の言葉からも示されているとおりであります。

皆が考えたとおり、医療は、施設の立派さではなくて、人を支える仕組みが本当に命だと思います。地域が本当に必要としているのは、住民一人一人が納得して、安心して頼れる医療体制。県立にしる、個人病院にしる、市立病院にしる、そうだと思います。

市民の声を丁寧に聞いて、時には立ち止まって、今回、ここまで計画を積み上げた形の中ですけれども方向を修正するとか、例えば、白紙にしても決して撤退ではないと思うのですが、そういった判断も必要な時期に来ているのではないかと思います。

今議会で、議決しろっていう状況も、私は本当につらいです。

むしろ将来に対して、責任を持つ政治の在り方だと私は強く感じます。

議員の1人として、私は誰か一方を切り捨てる判断ではなくて、分断を越えて分断しますよ本当に。市内が分断していくという状況の中で、合意と理解を積み重ねる道をもう1回、時間はどの程度か分かりませんが作りませんか。

そんな思いの中で、間違いないように決めていくことが今かなと思って、市長にお伺いします。

○議長（菅原由和君） 倉成市長。

○市長（倉成淳君） かなり幅広い。今議員が言ったように、将来に責任を持つっていうことと、それから地域の総力戦になるっていうのは、地域医療。そのとおりだと思います。ですからこそ、今判断して、2040年に向かっていかないと本当に大変なことになるっていうのは私の今の実感ですので、責任を持って進めていきたいと思っています。

○議長（菅原由和君） 他にございますか。

よろしいでしょうか。

はい。

それでは特にご質問等はないようですので協議については以上といたします。

ここで説明者退席いたします。

暫時休憩します。



#### 4 その他 （以下略）